

### 3.しつけ・子どもこの非行ひこう

## ただ正しいしつけは 子どもへの大切な贈り物。



- 子どもが相談したくなる親はどこが違うんだろう。
- 子どもはSOSがうまく言えない。
- 万引きはゲームじゃない、犯罪だ。
- 酒・タバコぐらいは大したことではない、とおもっていませんか。
- 「覚せい剤には手を出さない」と、子どもが自分で決めるために。
- ずいぶん厳しく叱られたけど、今ではそれに感謝しています。
- 感情にまかせて叱ることとしつけとは違う。
- 子どもを虐待から守るために。
- 特別な支援の必要な子どもがいます。
- 言うことを聞かないのは、子どもの自立が始まった証拠。
- 幸せとは手に入れるものではなく、すでにこうして生きていることかも。

# 子どもが相談したくなる親は どこが違うんだらう。



人は愛され理解されたがっている存在です。理解されな  
いときの不満がたまるとキレることもあります。突然子ども  
がキレたとき、本人も親も理由がよく見えず、怒ったり  
苦しんだりしますが、理由はあるのです。

日ごろから相手の話をじっくり聞く、同じ目の高さで考  
える、深い関心をもつ、といった姿勢を親が身につけるこ  
とで、子どもは親に愛されている実感を得ることができま  
す。

子どもは愛されていると感じるとき、安定した気持ちで  
問題に立ち向かうことができます。そして、不必要に攻撃  
的にならず、他者や問題を受け入れることができ、大きく  
成長できるのです。

子どもが愛されていると実感できる コミュニケーションをする



# <sup>こ</sup>子どもはSOSがうまく<sup>い</sup>言えない。



いじめや<sup>ふとうこう</sup>不登校につながる<sup>なや</sup>悩みなど、<sup>こ</sup>子どもが<sup>こ</sup>こころの<sup>もんだい</sup>問題をかかえたとき、それは、しばしば<sup>しんたいてき</sup>身体的なサインと<sup>あらわ</sup>なって現れます。

<sup>ふくつう</sup>腹痛・<sup>はけ</sup>吐き気・<sup>げり</sup>下痢・<sup>しょくよくふしん</sup>食欲不振・<sup>めまい</sup>めまい・<sup>ずつう</sup>頭痛・<sup>はつねつ</sup>発熱と<sup>しょうじょう</sup>いった<sup>かしよく</sup>症状や<sup>きょしょく</sup>過食・<sup>ふみん</sup>拒食・<sup>ふみん</sup>不眠といった<sup>こうどう</sup>行動などさまざま<sup>き</sup>なサインがあります。サインに<sup>き</sup>気づいたら、<sup>びょうき</sup>病気だと<sup>しんぱい</sup>心配するだけでなく、<sup>もんだい</sup>こころの問題が<sup>はいけい</sup>背景にないか<sup>かんが</sup>考えましよう。

「<sup>き</sup>気のせいだ」「<sup>やす</sup>わがまま」「<sup>こと</sup>ズル休み」というような<sup>こと</sup>言<sup>ば</sup>葉で<sup>ば</sup>かたづけず、<sup>ようす</sup>様子をよく<sup>み</sup>見、<sup>はなし</sup>話をよく<sup>きき</sup>聞き、<sup>りかい</sup>理解しようとする<sup>しせい</sup>姿勢が<sup>だいじ</sup>大事です。また、<sup>いし</sup>かかりつけの<sup>がっこう</sup>医師や<sup>せんせい</sup>学校の<sup>そうだん</sup>先生にもよく<sup>せんせい</sup>相談してみましよう。

<sup>しんりてき</sup>心理的な<sup>もんだい</sup>問題による<sup>からだ</sup>身体・<sup>こうどう</sup>行動の<sup>れい</sup>サインの例

- <sup>からだ</sup>身体：<sup>ふくつう</sup>腹痛・<sup>はけ</sup>吐き気・<sup>げり</sup>下痢・<sup>しょくよくふしん</sup>食欲不振・<sup>めまい</sup>めまい  
<sup>どうき</sup>動悸・<sup>ずつう</sup>頭痛・<sup>はつねつ</sup>発熱・<sup>けんたいかん</sup>倦怠感  
<sup>こうどう</sup>行動：<sup>かしよく</sup>過食・<sup>きょしょく</sup>拒食・<sup>ふみん</sup>不眠・<sup>ヒステリー</sup>ヒステリー

## <sup>こ</sup>子どもの<sup>からだ</sup>身体や<sup>こうどう</sup>行動に<sup>あらわ</sup>現れる<sup>みのが</sup>サインを見逃さない

# まんび 万引きはゲームじゃない、はんざい 犯罪だ。

「スリルや刺激を求めて」「ゲーム感覚で」「仲間がするから」といった理由で万引きなどの非行をする子どもたちがいます。しかも、その多くは「悪いことをしている」という罪悪感がほとんどありません。

親は「悪いことは悪い」とはっきり言い、万引きや自転車泥棒などはれっきとした「犯罪」であることを子どもにしっかり理解させましょう。

また、子どもが万引きなどをしてしまったときには本気で叱り、子どもとともに迷惑をかけた人にきちんと謝るなど、子どもが心から反省し、二度としない決意をするようにうながしましょう。また、してしまった背景も考えてあげましょう。

まんび 万引き、ぬす 盗みなどの  
ひこう 非行をゆる 許さない



# 酒・タバコぐらいは大したこと ではない、と思<sup>おも</sup>っていませんか。

20歳までは、心と身体の成長のために特に大切な時期です。未成年者は急性アルコール中毒になりやすい、未成年でタバコを吸い始めた人は、大人になってからの人よりも肺ガンにかかりやすいなど、多くの悪影響が医学的に明らかになっています。また、生活の乱れから、薬物乱用などのさらに危険な行動の入口でもあります。

親は、子どもの飲酒・喫煙から目をそむけたり、大したことはないと許したりせず、きちんと注意し、法律で禁止されていること、身体に害があることを、子どもが納得するようによく話し合ひましょう。

## 子どもの<sup>こ</sup>飲酒・<sup>いん しゅ</sup>喫煙をゆるさない

# 「覚せい剤には手を出さない」と、 子どもが自分で決めるために。



薬物乱用が子どもたちの間に広がっています。その背景には、薬物が簡単に手に入るようになったこと、薬物を「エス」「スピード」と軽く呼んでいたり、「ダイエットに効く」と誤解するなど、薬物の怖さを理解せず、罪悪感が薄くなってきていることなどが、あげられます。

売る側は、都合のいいことしか言いません。親は、薬物は一度使うだけでも犯罪だという毅然とした態度をとることが大事です。そして、薬物はやめられずに依存症になってしまう危険があること、心身そして人生を崩壊させてしまうこと、本人や周囲の人間の苦悩はとても大きいことなどについて、話し合うようにしましょう。

どんな誘惑があっても、親子の信頼関係が子どもを自ら守らせることにつながります。

薬物の危険性を親子で理解する



# ずいぶん<sup>きび</sup>厳しく<sup>しか</sup>叱られたけど、 <sup>いま</sup>今ではそれに<sup>かんしゃ</sup>感謝しています。



「自分<sup>じぶん</sup>さえ良<sup>よ</sup>ければいい」「ルール<sup>まも</sup>を守らない」という人<sup>ひと</sup>は、なかなか人<sup>ひと</sup>から信頼<sup>しんらい</sup>されないものです。間違<sup>まちが</sup>った行い<sup>おこな</sup>は本気<sup>ほんき</sup>で叱<sup>しか</sup>り、その場<sup>ば</sup>で正<sup>ただ</sup>すことが本当<sup>ほんとう</sup>の愛情<sup>あいじょう</sup>です。

「自分の子<sup>じぶん</sup>だけ良<sup>よ</sup>ければいい」という考え<sup>かんが</sup>はやめ、叱<sup>しか</sup>るときには何が<sup>なに</sup>いけないのか、理由<sup>りゆう</sup>をきちんと伝<sup>つた</sup>えましょう。また、気分<sup>きぶん</sup>や感情<sup>かんじょう</sup>に流<sup>なが</sup>されず一貫<sup>いっかんせい</sup>性<sup>せい</sup>をもって叱<sup>しか</sup>ることも大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>です。

そして、親<sup>おや</sup>自身<sup>じしん</sup>もルール<sup>はん</sup>に反<sup>はん</sup>することはしないように気<sup>き</sup>をつけましょう。子ども<sup>こ</sup>に信頼<sup>しんらい</sup>され、尊敬<sup>そんけい</sup>される親<sup>おや</sup>でありつづ<sup>つづ</sup>けるためにも。

<sup>ま</sup>まちが<sup>しか</sup>間違<sup>まちが</sup>ったおこないはしっかり叱<sup>しか</sup>る

# 感情にまかせて叱ることと しつけとは違う。

しつけは大切ですが、しつけなくては、という気持ちから、ついたたいてしまい、その行為に歯止めがきかなくなってしまう場合もあります。子育てのイライラやストレスが、子どもへの愛情を忘れさせ、叱るという行動にすりかわっているのではないのでしょうか。

上手な叱り方のヒントは、「叱られる側」の子どもの立場にもなって考えること。「そう言われたら子どもはどう感じるだろうか」「子どもはどう受けとめるだろうか」、まずここから考えてみましょう。

子どもの心や身体を傷つけるような叱り方は、教育的な効果がないばかりでなく、児童虐待になります。

## 「叱られる子ども」の立場も考えてみる





# こ ぎゃくたい まも 子どもを虐待から守るために。

- ① 「おかしい」と感じたらまよわず連絡〈通告は支援の始まり〉
- ② 「しつけのつもり…」はいいわけ〈子どもの立場で判断〉
- ③ ひとりで抱えこまない〈あなたにできることから即実行〉
- ④ 親の立場より子どもの立場〈子どもの命が最優先〉
- ⑤ 虐待はあなたの周りでもおこりうる〈特別なことではない〉

## じ どうぎゃくたい 「児童虐待」とは？

- ① 身体的虐待（なぐる、けるなどの暴行）
- ② 性的虐待（わいせつな行為をしたり、させたり、また見せたり  
すること）
- ③ ネグレクト（適切な食事をあたえなかったり、清潔な衣服をあたえ  
なかったり、病気なのに病院へ連れて行かない、学校  
に合わせないなど、養育をおこたること）
- ④ 心理的虐待（子どもの心をひどく傷つける言動）

つぎ こう い じどうぎゃくたい  
次のような行為も児童虐待になります。

ほ ご しゃ い がい どうきよにん ぎゃくたい ほうち  
○保護者以外の同居人による虐待を放置すること

こ め まえ はいぐうしゃなど ぼうりよく  
○子どもの目の前で配偶者等へ暴力をふるうこと など

ぎゃくたい う おも こ み ふくしじむ  
虐待を受けたと思われる子どもを見つけたときは、すぐに福祉事務  
所や子ども家庭センターなどへ連絡（通告）してください。早期発見、  
早期対応が大切です。

## とくべつ し えん ひつよう こ 特別な支援の必要な子どもがいます。



か てい がっこう  
家庭や学校で、「ことばのやりとりがうまくいかない」、  
「いつまでも落ち着きがない」、「漢字が覚えられない」など、  
ねんれい  
年齢にふさわしくない行動や様子が見られる場合、発達障  
がい  
害がその理由の一つかもしれません。これらは生まれつき  
の物であり、こそだ し かた げんいん  
子育ての仕方に原因があるわけではありません。また、これらがきっかけとなってがっこうきら  
学校嫌いになって  
いる場合もあります。

はったつ こうどう しんぱい ひとり なや  
発達や行動について心配があったら、一人で悩まず、で  
きるだけはや がっこう ちいき はったつ そうだん まどぐち そうだん  
早く学校や地域の発達相談の窓口にご相談してみ  
るとよいでしょう。せんもんてき  
専門的なアドバイスをうけて、こうかてき  
効果的な  
はたら  
働きかけをすることによって、その子のこ こま じょうたい  
困っている状態の  
かいぜん きたい  
改善が期待されます。

※P81より、かくしゅ そうだん か のう かんけい きかん しせつ しょうかい  
各種相談可能な関係機関・施設を紹介して  
います。

はっ たつしょうがい か のうせい かんが  
発達障害の可能性も考えてみる



## はったつしょうがい 発達障害とは

ここでは、「発達障害者支援法」で規定された発達障害の主なものについて解説します。どのタイプに分類されるかということも大切ですが、基本的な特性をふまえた上で、どのように対応することがよいのかを知ることはもっと大切です。

### 1. LD (学習障害：Learning Disabilities)

LDとは、全般的な知的発達に遅れはないものの、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち、特定のものの習得と使用にいちじるしい困難を示す様々な状態をさすものです。

### 2. ADHD (注意欠陥多動性障害：Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)

ADHDとは、年齢あるいは発達にふつりあいな注意力と多動性（衝動性）のどちらか、あるいはその両方を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学習に支障をきたすものです。症状は7歳以前に現れ、その状態が続きます。

### 3. 自閉症

自閉症とは、3歳位までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害です。また、自閉症の中で知的発達の遅れをともなわないものを「高機能自閉症」といいます。

なお、よく似た障害である「アスペルガー症候群」も、他人との社会的関係の形成の困難さ、興味や関心がせまく特定のものにこだわることなどの特徴がありますが、知的発達の遅れをともなわず、かつ、言葉の遅れをともありません。

※自閉症と特徴が重なり合う障害を総称して「広汎性発達障害」や「自閉症スペクトラム」又は「自閉症スペクトル」と呼ぶこともあります。

# 言うことを聞かないのは、 子どもの自立が始まった証拠。

思春期や反抗期がくると、身体の成長に心の成長が追いつかず、ちょっとしたことで有頂天になったり深く傷ついたりします。また、異性や性への興味が高まる、自我が強まり親や先生がうっとうしくなる、秘密をもつなど、成長という変化の中で心が最も不安定になります。ですから、子どもが言うことを聞かなくなっても、いたずらに動揺したり、おさえつけたりする必要はありません。子どもの自立や親離れが始まった証拠です。むやみに干渉し過ぎず、子どもの力を信じてあたたかく見守りましょう。

しかし、それははれ物にさわるような接し方とは違います。冷静に子どもの姿を見つめ、常に会話を重ねる努力をしましょう。

思春期の子どもを理解し、逃げずに見守る

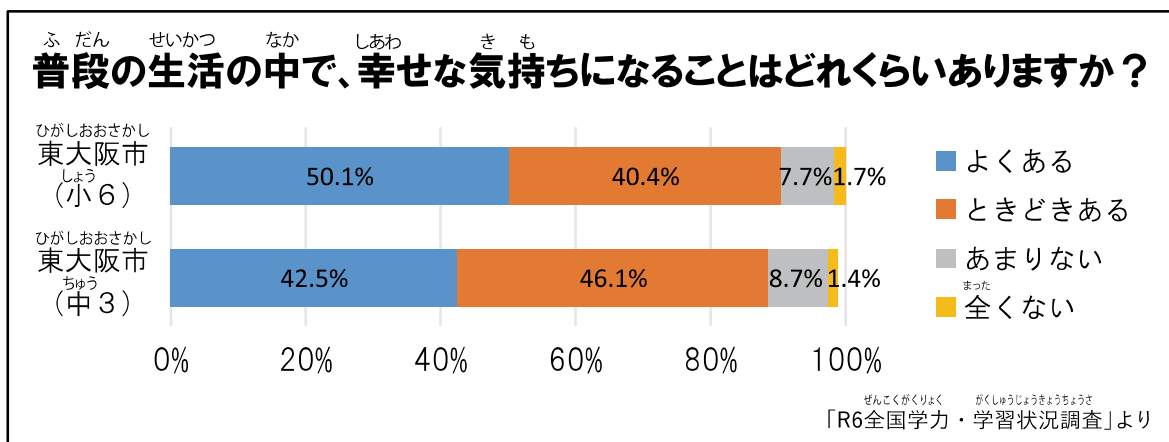


# 幸せとは手に入れるものではなく、 すでにこうして生きていることかも。



幸せとは、家族や友人がいて、空気や水があって、地球という星が差し出してくれるものに支えられて生きていること、ともいえます。幸せになるのに必要なのは、当たり前前の生活の中ですでにある幸せに気づき、感謝し、それを味わうことです。

感謝の気持ちから、ものを大切にしてゴミを減らす、海や山でゴミを捨てない、水や電気を無駄遣いしない、などを小さいころから習慣づけることが大切です。そうした身の回りの小さなことの実践が、環境を大切にする心をはぐくみます。



かんきょう たいせつ ところ そだ  
**環境を大切にする心を育てる**